

電気電子工学委員会通信・電子システム分科会

(第 25 期・第 3 回)

議事要旨

- I. 日時 令和 5 年 3 月 1 4 日 (火) 19:00-20:40
- II. 会場 遠隔会議 (主催会場：慶應義塾大学オンラインシステム)
- III. 出席者
荒川委員、荒木委員、江村委員、河野委員、小柴委員、三瓶委員、河東委員、佐古委員、
笹瀬委員、仙石委員、津田委員、中野美由紀委員、中野義昭委員、原田委員、森川委員、
山中委員
傍聴：大山小委員会委員、岡野小委員会委員、成末小委員会委員、新井田小委員会委員
- IV. 議題
 - 1. 前回議事録確認
 - 2. 提言に向けての議論
 - 3. その他
- V. 配布資料
資料 1：電気電子工学委員会通信・電子システム分科会、ICT分野の魅力・興味基軸
の分析と創造小委員会 (第25期・第3回) 議事要旨
資料 2：見解案の説明
資料 3：見解案
- VI. 議事
会議に先立ち「今回の審議は ICT 分野の魅力・興味基軸の分析と創造小委員会で議論
された見解の内容について審議する関係で、同小委員会の委員 4 名にもご参加いただ
いている」という点が、同小委員会委員長の森川委員より説明があった。
 - (1) 前回議事録確認
配布資料 1 に基づき、第25期・第3回ICT分野の魅力・興味基軸の分析と創造小委員会
(第25期・第3回通信・電子システム分科会と合同開催) の議事要旨を確認した。
 - (2) 提言に向けての議論

森川委員、新井田委員より配布資料2、3に基づき、見解案の説明がされ、修正点に関して議論を行った。主な検討・修正・強調が必要なポイントは以下である。

- (a) 日本において技術開発は当然必要だが、日本は技術開発に力を入れすぎていて社会実装に関しては十分力が入っているとは言えない。この点は改善する必要性がある。
- (b) 提供できる“価値”の定義は難しいとしても、技術オリエンテッドだけではなく、社会実装のためのエコシステムを創出することが必要という潮流はグローバルで高まっており、日本はこの点が弱いため対策を検討することが必要である。
- (c) 企業と大学との情報交流・人事交流が日本はあまりにも少ない、それに加えてグローバルな状況の理解の度合いもかなり低い。この点を改善し、戦略的に研究開発・社会実装を実施できるチームでプロジェクトを構築することが必要である。
- (d) プロジェクトの評価ポイントはいろいろなファクターがあり、評価尺度を求める価値に合わせて多様化していくことが必要である。

また、三瓶委員から今回の見解に関する今後の進め方に関して方向性が示され、現在の見解案をベースとして必要な修正を行い、提出後いただいたコメントに対して対応をしていくということで合意した。

(3) その他

三瓶委員から学術会議における最近の動向についての報告があった。

以上